

笠ひろふみ 10年の歩み

政治記者から国政へ挑戦



テレビ朝日政治記者時代



03年11月9日初当選

民主党では58人の新人議員が当選
→現在4期連続
当選は12人に

1期 新人議員として走る

人づくりに燃える!

文部科学委員会が初質問
新しい教育基本法の必要性を問う
現在まで10年間一貫して文部科学委員



議員としての初外遊も教育!
サッチャー改革に学ぶ教育正常化への道
中西隆政一

民主党大会で議長をつとめる(04年9月)



超党派の英国教育調査団(04年9月)
▶拉致問題への取り組みもスタート
超党派の議員連盟、衆院に設置された拉致対策特別委員会に所属



2期 政権交代を目指して



前原新体制の下、国民運動委員長としてスタート(05年9月)
特別国会で党を代表して本会議質問(05年10月)



国会議員年金廃止を主導
議員年金廃止法案について党を代表して質疑(06年1月)

議員活動10年。

政府の中で仕事をした経験から

昨年の11月9日で、衆議院議員に初当選してから丸10年が経ちました。野党として政権交代を目指して約6年。政権与党として活動して3年3カ月。この間、一貫して『人づくりなくして国づくりなし』の信念の下、教育改革を中心に文部科学分野の政策実現に向けて多くの仕事をさせて頂きました。

特に、政府の一員として文部科学副大臣、大臣政務官を務める中で得た経験は、今後につながる大きな財産だと思います。高等学校の無償化制度など、政権交代したからこそ、今までできなかった政策を実現することができました。また、在任中に東日本大震災が発生し、被災地に何度も足を運びながら、教育現場の復旧・復興に向けた対策にも全力で取り組みました。文部科学行政は、教育から科学技術、スポーツ・文化の振興まで多岐にわたります。予算編成に向けた財務省との厳しい折衝も担当しました。

実際に役所で仕事をして感じたことは、中堅・若手の中に、これからの行政を背負って立つ人材が数多くいるということでした。そして、政治家のリーダーシップと官僚の政策立案や実務能力が車の両輪として機能した時に初めていい仕事ができると実感しました。政務3役として責任をとる覚悟を行動で示し、官僚の真の信頼を得ることができるかどうか大きなカギとなります。

国会対策の裏方を担った経験から

与党、野党両方の立場で、国会運営の陣頭指揮を執る国会対策委員会の筆頭副委員長、委員長代理を務め、議院運営委員会の理事として他党との交渉にあたったことは大きな財産となっています。議院内閣制の下では、政策を実現するためには、他党も含めた合意形成を図らなければなりません。このために最も大事なことは人としての信頼関係だと思います。与野党を通じた幅広い人間関係の構築も必要です。政策、考え方の違いがあるのは、ある意味で当たり前です。議会でも党内でも、互いの信頼関係があれば、知恵を出し合い、最終的に一つの結論を導くことも出来るはずですよ。

福島原発事故を受けて、私たちが与党の時に議連理事会メンバーでチェルノブイリ、IAEA(国際原子力機構)を視察・調査しました。これを受けて、憲政史上初めて衆参両院が一体となって、国会の下に原発事故調査委員会を設置しました。同じ目的に向かって与野党が協力して実現した成果の一つです。

野党の立場でも、政府与党に働きかけて政策を実現することは可能です。昨年の通常国会で『いじめ防止対策推進法』が成立しました。これは、大津市でいじめによる中学生の自殺事件が起きたことを受けて、私たちが政権担当時から取り組んできた課題でしたが、与党にも働きかけ、お互いに真摯な議論を重ねた上でまとめることができました。

私は、当選以来、国会審議について、野党としては質すべきは厳しく質すが、不毛な政局的な対立を繰り返す国会であってはならないと主張してきました。政府の政策が間違っているなら、堂々と対案を出し、建設的な議論をしていかなければなりません。

11年目の決意!

自民党に対峙できる“勢力の結集を!”

この10年間、連続4期当選させて頂いたおかげで、この他にも、総括副幹事長や幹事長代理、選対委員長代理などの党務を歴任し、文部科学委員会では与党の筆頭理事、現在は野党の筆頭理事として、委員会運営の先頭に立たせて頂いています。

年末年始、地域の皆さんと対話を重ねる中で、多くの方から「自民党だけではこの先不安だ。しかし、民主党も含めて他も期待できない。もっとしっかりしろ」という厳しい声を頂きました。

今年こそは、こうした皆さんの思いに応えていかなければなりません。自民党に対峙できる、受け皿としての期待を寄せて頂ける勢力の結集も視野に入れて行動してまいります。

昨年末、細野前幹事長らと野党3党の中堅・若手有志による、規制緩和や地方分権をテーマとする「既得権益を打破する会」を発足させ、私が幹事長に就任しました。外交・安全保障政策についての勉強会もスタートしています。

マスコミは“新党”、“野党再編”と煽りますが、それはあくまでも結果の話であり、まずはこうした機会を通じて政策を研鑽し、信頼関係を築いていくことからです。“一強多弱”といわれる中、チェック機能を果たしていくためには、国会における野党の連携強化も必要です。

民主党に対しては、政権交代への期待が大きかっただけに、いまなお厳しい見方が続いています。しかし、今の野党の中で、政府与党を経験し、反省も含めて様々な蓄積をもつ人材は、民主党に圧倒的に多いことは間違いありません。特に我々世代の役割が重要です。中核を担っていくという覚悟で、新たな勢力結集を目指していききたいと思います。

新たなる目標に向かって前へ!

今、再び野党になりましたが、初当選から6年間の野党時代とは、私自身の意識も大きく変わりました。

与党を経験したからこそ、見えてくる世界があります。政務官、副大臣として仕事をした中で、多くの政策を実現できる達成感と喜びを感じました。同時に責任の重さも痛感しました。自分自身の足らざる点、磨かなければならない点も見えてきました。

中曽根元総理は著書の中で「野党時代は決して無駄な時間ではない。与党時代に身につけた贅肉を落とし、筋肉を鍛え直す時期である。つまり、自分は何のために政治家になったのかを考えつつ、国家像にも頭をめぐらせ、その中で自分は何をすべきかを考える“黄金のような時間”を与えられたと思うべきだ。花が咲かない冬のときにこそ、懸命に土をつくり、土台を固めておくことが必要だ。」と著書で述べています。まさに、この通りだと思います。

11年目を迎え、“国民と政治の距離を近づけ、国民の手に政治を取り戻す”という自らの原点に立ち戻り、これまで以上に地域の皆様との対話を重ねてまいります。そして、再び政権を担わせて頂いた時には、今度は必ず期待に応えられるように頑張ります。

人づくりに燃える!

06年“教育基本法改正”審議の先頭に立つ!
『日本国教育基本法案』を起草し、対案として提出



▶文部科学委員会理事に就任 06年~07年
アジア欧州議員会議に出席(06年5月)



▶08年 予算委員会委員として福田、麻生両総理と論戦を展開

神奈川県連代表として政権交代に向けて走る!

08年4月13日
初の代表選挙で勝利し就任

18選挙区に候補者を擁立し、選対本部長として県内全域で応援!

09年8月30日
歴史的な全員当選果たす!

3期 政府与党の責任を担う

人づくりに燃える!

10年9月21日 文部科学大臣政務官 就任
12年10月2日 文部科学副大臣 就任



議院運営委員会理事として
超党派の拉致議連事務局長として



4期 野党として再出発

逆風の中、神奈川で唯一、小選挙区で勝利!(12年12月16日)

